(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	多職種が集まった特定非営利活動法人つなぐによる「まちづくり」 ～医療職のおこすイノベーションとは～
演者名	倉本剛史(1) 齋藤昇(2) 青柳浩太郎(3) 林田直美(4)
所属	荅北クリニック(1) サイカイ薬局(2) 天草病院(3) 訪問看護ステーションあこう(4) 特定非営利活動法人つなぐ(1)～(4)

背景

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「地域包括ケアシステム」の考えを厚生労働省が打ち出して、数年が経過している。

われわれが暮らす天草の65歳以上人口率は、すでに30%を超え、50%以上の限界集落も多い。2035年の天草の生産年齢人口予測では、現在の6割程度になるといわれており、働き手の人口減少も大きな問題になってきている。

地域包括ケアシステム構築には、「地域住民自らが支え合い、問題を見つけ解決する必要がある」という意識づけ、つまり行政や保険に頼りすぎない自立したまちづくり、を行うことが重要である。

目的

われわれは医療・介護職を中心とした多職種による特定非営利活動法人「つなぐ」を平成26年7月に立ち上げた。地域での医療提供が難しくなった天草町の北部地区(下田・福連木)での地域包括ケアシステム構築・ヘルスケアコミュニティ(健康を意識したまちづくり)への活動を紹介したい。

実践内容・効果

主となる事業として、医療の提供ができない(15km四方の範囲で病院・診療所がない)地域で訪問看護ステーションを立ち上げ、周囲の医療機関や行政との連携を行い当該地区の医療の中心拠点を目指した。システム構築のために、コアメンバーのコミュニケーションやファシリテーションのスキルアップ、ソーシャルデザイン手法の学習、まちづくり戦略会議などを行った。いくつかのプロジェクトが現在進行中であり、新しい雇用(ソーシャルビジネス)創出も目指している。

考察

地域包括ケアシステム作りは、行政・医療・介護職だけで成立させることは限りなく難しい。地域の資源・特色・人の繋がりを意識した、医療や行政の枠を大きく超えた範疇での活動が、「まちづくり」には必要である。